

河川

浜松河川国道事務所は、静岡県西部の菊川本川、支川を合わせた約36kmと、天竜川の約95kmの河川改修及び河川管理並びに天竜川支川の大入川にある新豊根ダムの管理を行っています。

また、天竜川中下流域の治水安全度の向上を目的として利水専用の佐久間ダムを有効活用する、天竜川ダム再編事業を行っています。

1 河川事業

菊川

菊川は、その源を静岡県掛川市栗ヶ岳に発し、牛淵川などの支川を合流し遠州灘に注ぐ幹川流路延長28km、流域面積158km²の河川です。

菊川の治水事業は、頻繁に発生する水害に対応するために昭和8年から国による河川改修事業を実施してきました。しかし、近年においても、昭和57年、平成10年と流域全体に大きな浸水被害が発生しています。このため、引き続き流域の治水安全度を向上させるための事業を行っています。

一方、菊川は古くから農業用水として利用されてきましたが、流域に地形上安定した水源がなく、多くの溜池が造られました。その後、昭和43年に大井川用水が整備され、流況が安定したものの依然として平常時の水量が少ない川となっています。

また、河川の利用としては、芝生広場、河口部での水面利用、堤防上の散策等としての利用が盛んで、菊川が沿川住民の憩いの場となっています。

●菊川治水事業

菊川本川における流下能力不足箇所において、洪水を安全に流下させるため河道掘削や堤防補強、右岸高潮堤防の整備を行います。



芝生広場



菊川河口部

天竜川

天竜川は、その源を長野県八ヶ岳連峰の赤岳に発し、諏訪盆地の水を一担諏訪湖に集め、諏訪湖の釜口水門から、三峰川、小渋川、大千瀬川や気田川等の支川を合わせながら、遠州平野を南流し遠州灘に注ぐ、幹川流路延長213km、流域面積5,090km²の河川です。

天竜川は、「あばれ天竜」と呼ばれ、流域は古くからたびたび大きな洪水被害を受けており、近年においても昭和57年、昭和58年、平成3年等の洪水により浸水被害が発生しています。また、川沿いの浜松市・磐田市は市街化が進んでおり、洪水被害の危険性が増加しているため、さらなる治水対策が望まれています。

さらに、天竜川流域は、中央アルプス・南アルプスに挟まれた険しい地形と、中央構造線などが縦断するもろい地質構造のため、多くの土砂が流出しますが、ダムや海岸構造物等により、ダム貯水池の堆砂や遠州灘の海岸侵食等が進んでおり、総合的な土砂管理が望まれています。

また、天竜川は、豊富な水量を持つことから水道用水や農工業水として利用されると共に、水力発電等の用途に利用され地域の文化や開発に大きく貢献、影響を与えてきました。さらに、高水敷を活用した公園、グラウンドや散策道等として多くの沿川住民に利用されています。

●天竜川治水事業

天竜川下流部における流下能力不足箇所において、洪水を安全に流下させるため築堤河道掘削や樹木伐採を行います。



天竜川河口部